



新美南吉生誕100年通信

NIIMI NANKICHI 100th Anniversary Year

新美南吉生誕100年まで2年10か月

発行/新美南吉生誕100年記念事業検討委員会 〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1-10-1 新美南吉記念館内 TEL 0569-26-4888



祝 天皇皇后両陛下 行幸啓

皇后美智子様が愛された南吉文学

- 1 出迎への市民に手を振ってお応えになる両陛下
- 2 御出発の前に挨拶を交わす両陛下と館長
- 3・5 図書室で園児への読み聞かせの様子をご覧になる両陛下
- 4 歓迎に集まった大勢の市民



平成二十二年六月十五日、天皇皇后両陛下が新美南吉記念館へご来訪下さいました。熱心に展示をご覧になり、子ども達に優しく語りかけられるご様子や、お迎えに集まった市民に対し、にこやかに手を振られるお姿に接し、市民も関係者も深い感動に包まれると共に、新美南吉生誕百年事業を推進する上でも、これ以上ないエールをいただいた形となりました。

皇后美智子様が大の南吉ファンでいらっしやることはよく知られています。昭和三十年代後半、当時の美智子妃殿下は、新美南吉顕彰会（半田市）が献上した『新美南吉代表作集』を

読まれ、収められていた南吉の詩「天国」を引用して、母校の聖心女子大学の文集に子育てに関する一文を寄せられました。浩宮徳仁様（現皇太子）がまだ二歳で、美智子様が始めての子育てに向き合われていた頃のことです。このことは週刊誌で紹介され、まだ国民的作家とはいえなかった新美南吉の名を全国へ広めることになりました。

南吉に限らず児童文学全般に造詣の深い美智子様は、平成十年に国際児童図書評議会の世界大会で講演され、ご幼少の頃の読書の思い出を語られました。その際、南吉の童話「でんでんむしのかなしみ」に触れられ、「何度となく、思いがけない時に私の記憶に甦って」来たと話されました。

ある日、一匹のでんでんむしが、自分の背中の殻の中に悲しみがいっぱい詰まっていることに気づき、それを友達に訴えて回るもの、どの友達からも「あなたばかりではない」と言われ、最後に悲しむのを止める、というこの物語は、

戦後、南吉作品が評価されていく中でも、「あきらめの物語」とされ、ほとんど注目されませんでした。しかし、美智子様のご講演をきっかけにその評価が変わってきています。

自分の悲しみばかりに囚われ、その不満を他人や社会につける人が増えていく現代、「悲しみは誰でも持っているのだ。私ばかりではないのだ。私は私の悲しみをこらえていかなければならない」というこの作品は、私達に大切なことを教えてくれます。

決してあきらめるものではありません。悲しみを持つ者は他人の悲しみを理解することが出来ます。他人の悲しみに目を向け、労わりの気持ちを持つことで、自分の悲しみに囚われていた心は少し軽くなり、悲しみと共に生きる強さも生まれるのだと思います。

ご成婚以来五十一年。常に天皇陛下を支え、国民を励まし、氣遣われてきた美智子様も、そのようにして、これまでの人生を歩んでこられたのではないのでしょうか。

「でんでんむしの かなしみ」

新美南吉

いっぴきの でんでんむしが ありました。
ある ひ その でんでんむしは たいへんな ことに きが つきました。

「わたしは いままで うっかりして いたけれど、わたしの せなかの からの なかには かなしみが いっぱい つまって いるでは ないか」

この かなしみは どう したら よいでしょう。
でんでんむしは おともだちの でんでんむしの ところに やって きました。

「わたしは もう いきて いられません」
と その でんでんむしは おともだちに いいました。

「なんですか」
と おともだちの でんでんむしは ききました。

「わたしは なんと いう ふしあわせな ものでしょう。
わたしの せなかの からの なかには かなしみが いっぱい つまって いるのです」

と、はじめの でんでんむしが はなしました。

すると おともだちの でんでんむしは いいました。
「あなたばかりでは ありません。わたしの せなかにも かなしみは いっぱい ですよ。」

それじゃ しかたないと おもって、はじめの でんでんむしは、べつのおともだちの ところへ いきました。

すると その おともだちも いいました。

「あなたばかりじゃ ありません。わたしの せなかにも かなしみは いっぱい ですよ」
そこで、はじめの でんでんむしは また べつのおともだちの ところへ

いきました。
こうして、おともだちを じゅんじゅんに たずねて いましたが、どの とも

だちも おなじ ことを いうので ありました。

とうとう はじめの でんでんむしは きが つきました。
「かなしみは だれでも もって いるのだ。わたしばかりでは ないのだ。わたしは わたしの かなしみを こらえて いかなきや ならない」
そして、この でんでんむしは もう、なげくのやめたので あります。



●国民的童話だけど：

新美南吉といえはやはり「ごんぎつね」。その知名度は、他の作品を圧倒しています。

それは、「ごんぎつね」が昭和三十一年から小学四年生の国語教科書に載り続け、昭和五十五年からはすべての教科書に採用されているからです。これまでに六千万人が学校で習ったといわれ、たぐさんの絵本にもなっています。まさに「ごんぎつね」は国民的童話といっても過言ではありません。

ところが、その知名度と人気が比例しているかという点、じつはそうでもないのです。

以前、月刊『MOE』（白泉社）が、読者アンケートで「日本の名作童話ベスト20」を選んだことがありますが。その結果は、浜田広介の「泣いた赤鬼」（三位・三十三票）や宮澤賢治の「銀河鉄道の夜」（四位・二十二票）を抑え、新美南吉が上位二作を独占するというものでした。ところが、一位を獲ったのは「手袋を

買いに」（七十二票）で、「ごんぎつね」（五十票）は二位だったのです。

この結果は意外ではありませんでした。新美南吉記念館でお客様と接しているとき、「ごんぎつね」に対して、「悲しすぎて辛い」「あの終わり方はどうしても納得できない」と仰る方が多いのです。なかには「今からでもハッピーエンドに書き変えなくてはいいかん」と抗議（？）される方さえいました。

しかし、そうした声は、「ごんぎつね」を通して受け

た衝撃の強さ、存在の大きさの裏返しともいえます。このように良くも悪くも気になるこの不思議な作品を、私達はどう理解したらいいのでしょうか。

●生きる力

「ゆとり教育」が推進された時期、「生きる力」という言葉をよく耳にしました。定義の曖昧さを指摘する向きもあったようですが、

が、「自ら考え、主体的に判断し」「他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性」（中教審答申）を育むことの大切さは、「ゆとり教育」が転換された今も変わらないはずで、この「生きる力」こそ、「ごんぎつね」を理解するキーワードではないか、と考えています。

●尽くしても尽くしても

南吉は、安城高等女学校での教え子にこう語ったそうです。

「世の中には、尽くしても尽くしても理解してもらえないことがあるんだよ」

私達大人は、つい子どもに「誠意を尽くせば、きっと相手に伝わる」と教えてしまいがちです。確かにそれを信じることは大切ですが、そうでない場合も当然あります。その時に「誠意は必ず通じる」としか教え

「ごんぎつね」は嫌いですか？

られなかった子どもはどう思うでしょう。誠意を尽くしている自分は当然悪くないはずですから、理解してくれない相手が悪いと思ってしまうのではないでしょうか。ごんはイタズラばかりしていましたが、兵十に償おうと考えてからはいじらしいほど尽くしていきます。では兵十が悪いのでしょうか。そうではありませぬ。兵十にはごんの寂しさや気持ちの変化はまったくわかりませぬから、またイタズラをしに

来た（と思っ）

悪いキツネを銃で撃つのは当然のことなのです。

「ごんぎつね」を読んだ子ども達は、はじめ、どうしてこんなに悲しい結末になるのか納得できません。しかし、次第に「ごんも悪くないし、兵十も悪くない、誰が悪いわけでもなくともこういうことは起きるんだ」と気付いていきます。

この「すれ違いや不条理の現実に触れる」という体験は、自分の悲しみや不満

にばかり囚われず、相手の気持ちも思いやる優しさを持つ第一歩となります。

こうして自ら得た真理や優しさは、上から教えられた教訓とは違い、心にしっかりと刻みこまれます。それが文学の力であり、まさに「生きる力」ともいえるのではないのでしょうか。

●多様性の魅力

もちろん、「ごんぎつね」にこうした価値を求めるのは、作品に対するひとつの受け止め方に過ぎません。数学とは違い、決まった答えがないのが文学です。特に「ごんぎつね」では、ごんの最期の気持ちもその後の兵十の行動も書かれていないため、どのようにも読むことができます。

しかし、それがまた魅力なのだと言えます。私達は「ごんぎつね」から様々なメッセージを受け取ることがができます。そうした奥深さこそ、半世紀以上にわたって教科書に載り続けてもなお色あせない秘密なのではないでしょうか。（T）

新美南吉童話のイメージキャラクター募集!

童話「ごんぎつね」の作者、新美南吉は、平成25年に生誕100年を迎えます。

これを記念し、ふる里の半田市では南吉童話のイメージキャラクターを募集します。

採用されたキャラクターは、印刷物、グッズ、着ぐるみなどさまざまな用途に使用し、南吉童話のPRに役立てていきます。また、使用目的を生誕100年事業や記念館に関することに限定せず、いつまでも広く愛されるキャラクターに育てていきたいと考えています。

皆様からのご応募をお待ちしています。

- 応募資格： 年齢、プロアマを問いません。
- 募集期間： 平成22年11月3日(祝)～平成23年1月15日(土) 必着
- 応募条件： 自作で未発表の作品に限ります。受賞後であっても、既存キャラクターの模倣や酷似していることが判明した場合は受賞を取り消します。
- 留意事項：
 - ・人物としての新美南吉をキャラクターにしたものではなく、南吉童話をイメージさせるものを図案化してください。
 - ・画材は問いませんが、単色(白黒)での使用も可能なもの。
 - ・2cm×2cm程度に縮小しても使用できること。
 - ・募集内容に愛称は含みません。愛称は別途選定します。
- 応募方法：
 - ・A4版白色用紙を縦向きに使用して描いてください。
 - ・画像データの場合は印刷したもので応募してください。(Eメールでの送付は不可)
 - ・応募点数に制限はありません。
 - ・応募票を付けてください(作品とは別の用紙<A4版>に、郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、職業<学生の場合は学校名>、電話番号、作品に対する説明<200字以内>を記入したもの)。

※応募票は下記ホームページからプリントアウトできます。

 - ・作品は、下記宛て先まで郵送または持参してください。
- 発表： 平成23年3月中旬に新美南吉記念館ホームページで発表します。受賞者には別途連絡します。
- 賞金：

| | | |
|-----------|------|-------------------------|
| 最優秀賞(1点) | 10万円 | ※受賞者が中学生以下の場合は相当額の図書カード |
| 優 秀 賞(2点) | 2万円 | 〃 |
- 応募作品の取り扱い：
 - ・応募された作品は返却しません。
 - ・入賞作品の著作権等一切の権利は主催者に帰属するものとします。
 - ・入賞作品を修正・補作(各種ポーズの追加等)することがあります。
 - ・入選作品を主催者以外の第三者も含め、商業利用することがあります。
- 宛て先・問い合わせ先：

〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1-10-1 新美南吉記念館 南吉キャラクター係
TEL 0569(26)4888 FAX 0569(26)4889 URL <http://www.nankichi.gr.jp>
- 主 催： 半田市・半田市教育委員会
- 共 催： 新美南吉顕彰会・新美南吉生誕100年記念事業実行委員会(予定)

南吉生誕百年事業のために百万円寄付

四月十五日、子どもの頃の南吉を子守りした長坂はやみ(旧姓森)さんの長女、澤葉子さん(京都府)が半田市役所を訪れ、南吉生誕百年事業のために百万円を寄付されました。

頂いた寄付金は、ふる里岩滑の環境整備に充てることとなり、九月下旬、名鉄半田口駅前に南吉ゆかりの地を地図や写真で紹介する案内板が設置されました。

実行委員会に移行します!

新美南吉生誕百年記念事業検討委員会では、これまで記念事業の内容や実行組織の構成について検討を進めてきました。このほど検討結果が取りまとめられ、八月二十日には、新美勝彦委員長が半田市長を訪問し、報告を行いました。

現在は、実行委員会への移行準備を進めているところで、十一月一日に半田市役所で設立総会が行われる予定です。